

## 因幡の中世城館の研究—西因幡地域の調査成果—

大川泰広

**要旨** 埋蔵文化財センターは、平成10～15年度に行った中世城館詳細分布調査の成果をもとに、地域の戦国史を語る上で欠かせない城館の再調査を行っている。個々の城館を取り巻く歴史的背景は城館構造に影響を与えた可能性が高く、文献調査の成果も踏まえ、再評価を行っています。

昨年のフォーラムのパネル解説で因幡武田高信と鶴尾城について発表し、まいぶん講座でもう一つの鹿野城について試論を発表しました。

今回は、因幡武田氏のその後と12月以降に確認した城館について報告します。

### 1 はじめに

### 2 因幡武田氏と鶴尾城

#### (1) 因幡武田氏

因幡の国人領主の一人。因幡山名氏の重臣。若狭国守護武田氏の庶流とされるが、不明。

##### ① 武田山城守（豊前守）・・・武田高信の父

鳥取城 城番（『稻場民談記』国主の部上）天文14年

##### ② 武田高信（又五郎）

永禄6年（1563）鳥取城在番の高信は毛利氏支援の下、布施天神山の山名豊数を攻め、鹿野に退去させる。

永禄7年（1564）7月 毛利・南条衆と鹿野（山名氏）による鹿野麓合戦（その後山名退去）

天正元年 尼子再興軍と山名豊国に攻められ鳥取城退去

天正年間、山名豊国により謀殺

##### ③ 武田助信（源三郎）『因幡民談記』所収「豊国方便被誅武田高信事」から

天正4年（1576）頃

因幡武田氏重臣、西郷因幡守により、松上社（鳥取市松上）の神主大畠氏のもとへ  
天正5（1577）から8（1580）年頃か

伯耆南条氏の家臣に（織田方南条氏と毛利方吉川軍との攻防戦に参戦）

天正9年（1581）頃か

助信と改名。秀吉から亀井茲矩らとともに鹿野城の在番衆の一人に命じられる。

天正9年以降

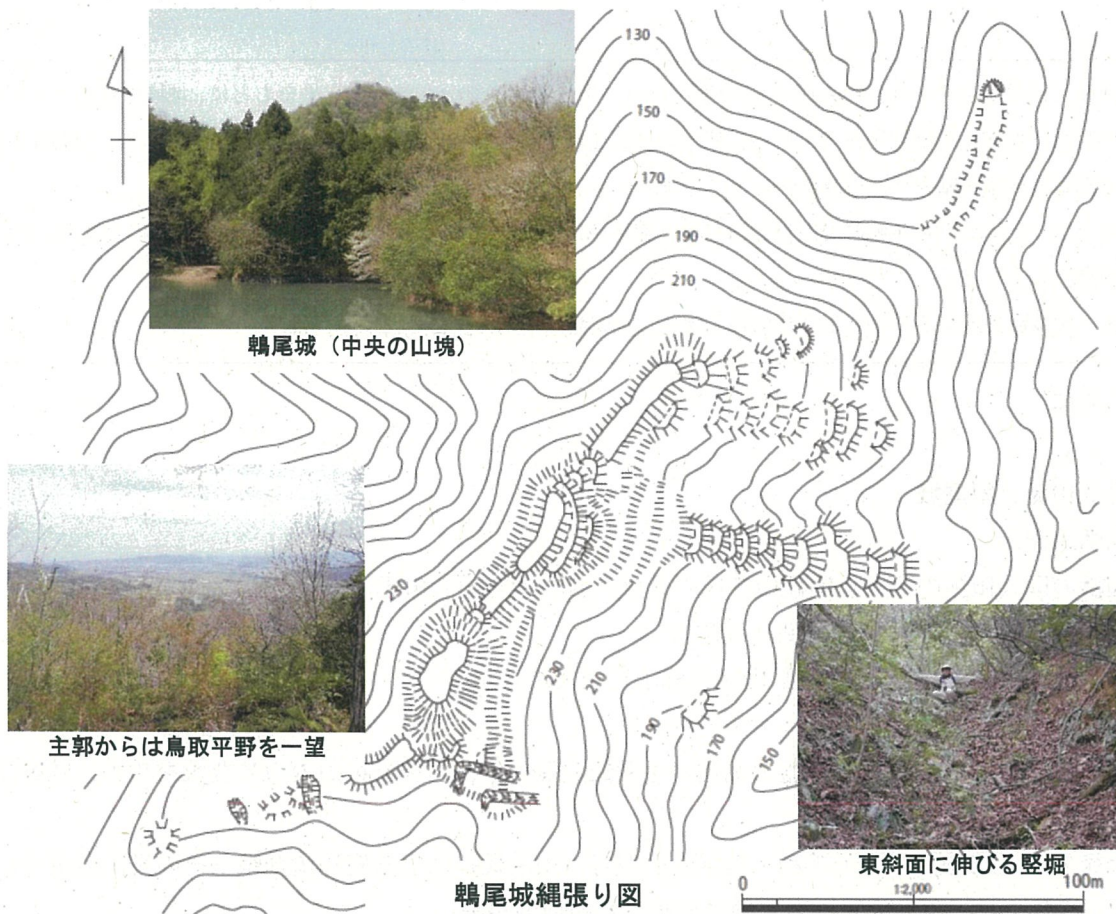
亀井茲矩に在番衆を追い出され、流浪。久留米藤四郎元包に奉公  
慶長6年（1599）頃

但馬七美郡の領主となった山名豊国から、先祖からの被官であるため召し抱えるとの誘いに帰参。200石の知行取として山名豊国の家臣となる。

○その後、武田高信の子孫は江戸時代を通じて山名氏に仕えている。

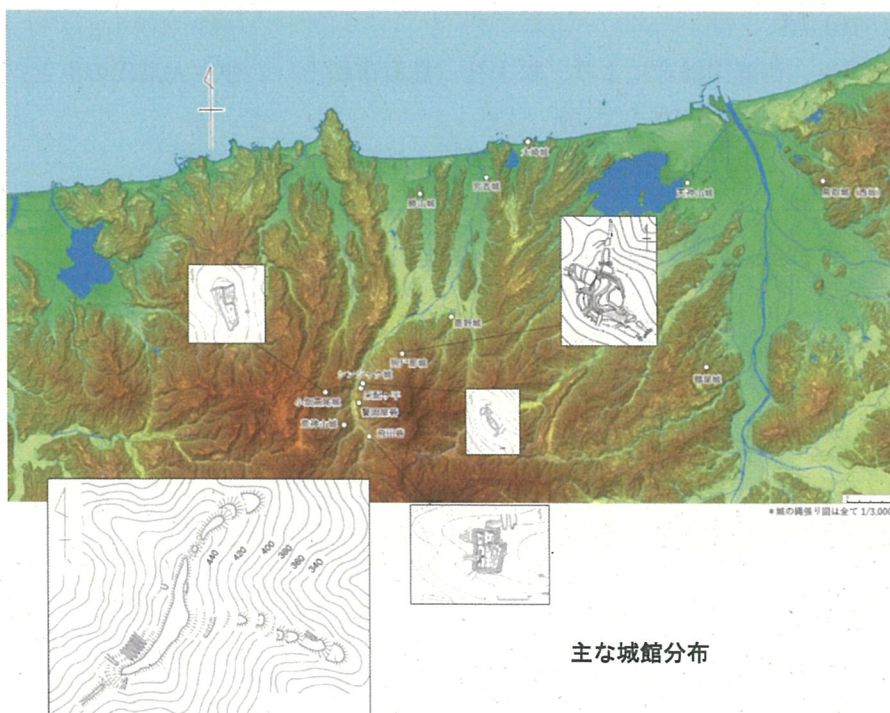
(2) 武田氏関連城館

① 鶴尾城



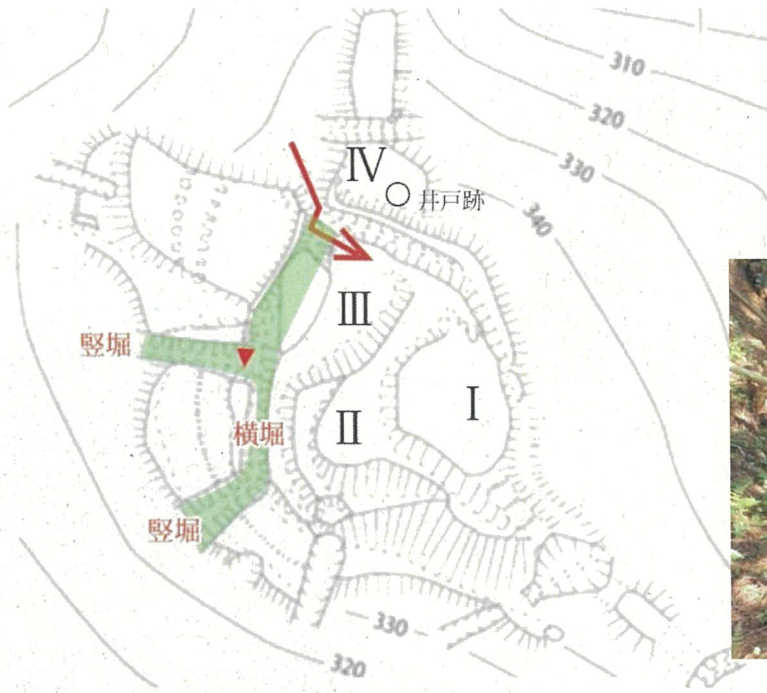
3 織田対毛利 境目地域の様相 (旧気多郡)

因幡・伯耆の境目 気多郡の中世城館 (58 城)・・・県内でも有数の城館密度





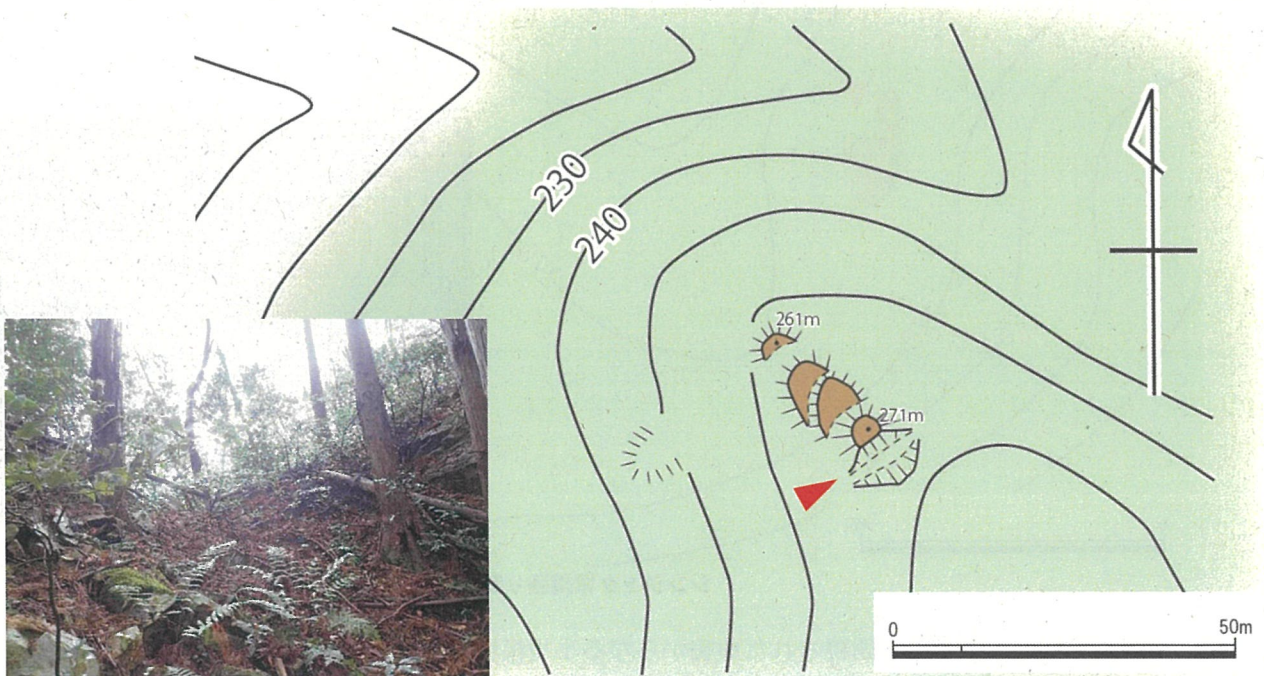
- ① 鹿野城・・・毛利方により因幡仕切りの城として普請、亀井氏が近世城郭として改修
- ② 狗戸那城・・・横堀に縦堀を組み合わせた城館（毛利の普請か？）（亀井が後に改修か？）



狗戸那城縄張り図

▼ 写真の方向 縦堀、横堀の状況

- ③ 荒神山城・・・滑石・佐谷峠を押さえる因・伯境目の城館（毛利方）
- ④ 警固屋砦・・・見張り台か



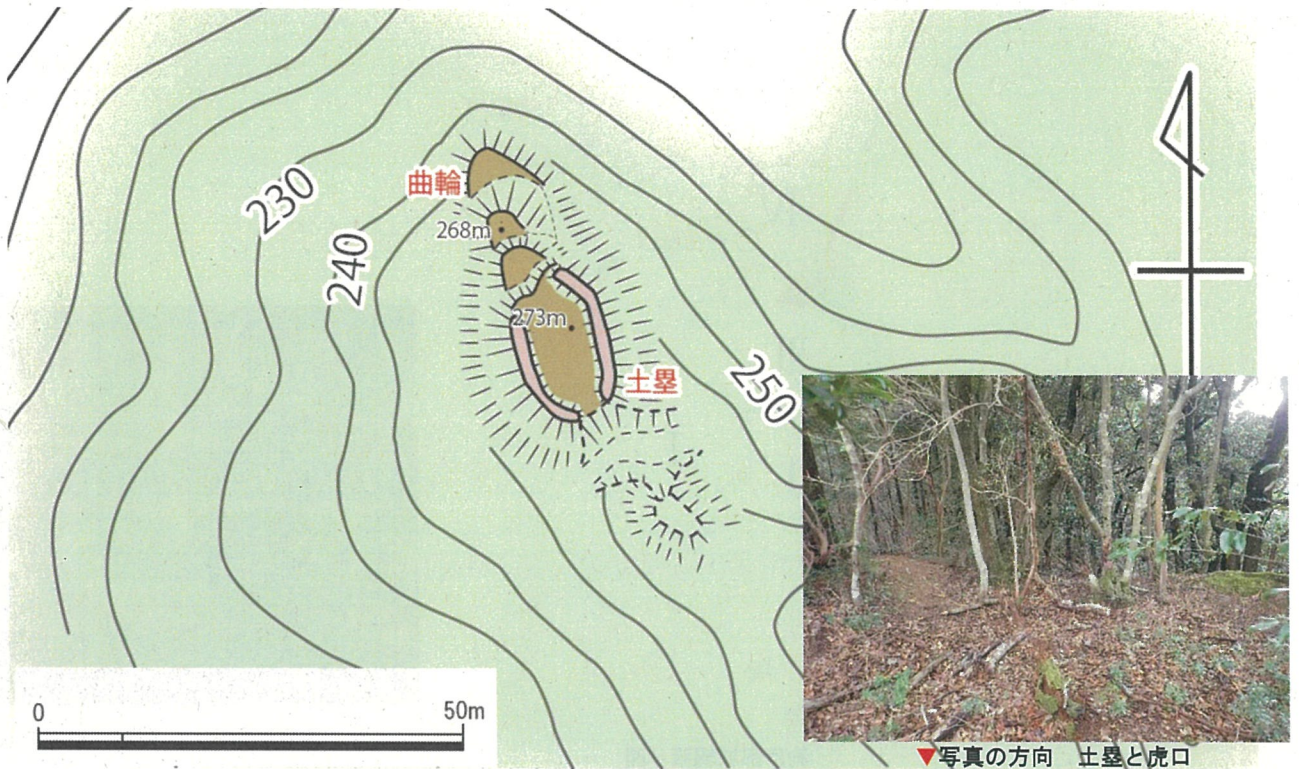
堀切

警固屋砦縄張り図



⑤ 飛田砦・・・土塁を三方に巡らせた城館（織田方関連か）

⑥ シンジャク城・・・土塁に囲繞された主郭を持つ小規模城館（織田方関連か）



シンジャク城縄張り図

⑦ 采配ヶ平・・・不明瞭な曲輪からなる城館



シンジャク城縄張り図

⑧ 小畑高尾城・・・土塁に囲繞された曲輪からなる小規模城館（織田方関連か）

#### 4 まとめ